



社会に対する コミットメント

■ 国連グローバル・コンパクト

リコーは2002年4月、国連グローバル・コンパクト (GC)*¹ に日本企業として2番目に署名しました。また2007年6月にはGCの「気候に配慮するビジネスリーダー綱領」*² に賛同し、署名しています。

*1 1999年1月にコフィー・アナン国連事務総長(当時)が提唱。人権、労働、環境、腐敗防止の4分野にわたる10の原則から構成される。
(<http://www.unglobalcompact.org/>) (英語)

*2 http://www.unglobalcompact.org/Issues/Environment/Climate_Change/index.html (英語)

■ 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)

2008年4月1日、生物多様性の保全を目指して積極的に行動する企業の集まりである「企業と生物多様性イニシアティブ」(JBIB)*³ が発足しました。リコーは、発起人企業の一員として、設立当初から参加しています。 *3 <http://www.jbib.org/>

■ 「ビジネスと生物多様性に関するイニシアティブ」のリーダーシップ宣言

リコーは、2008年5月にドイツで開かれた生物多様性条約第9回締約国会議で「ビジネスと生物多様性に関するイニシアティブ」*⁴ のリーダーシップ宣言に署名し、事業活動が生物多様性に与える影響を把握し、その保全に努めることを約束しました。 *4 <http://www.business-and-biodiversity.de/en/homepage.html>

■ 日本気候リーダーズパートナーシップ (Japan-CLP)

2009年7月、リコーは、「日本気候リーダーズパートナーシップ (Japan-CLP)」の設立メンバー企業として参加を表明しました。

■ 気候変動に関するカンクン声明

2010年12月、リコーは、気候変動に関する野心的で確固とした、公平で国際的な合意を求める声明「カンクン声明 (Cancun Communiqué)*⁵」への賛同を表明しました。この声明は、英国チャールズ皇太子を責任者とし、ケンブリッジ大学を母体とする「Corporate Leaders' Group on Climate Change」によって提案されたもので、以下の提案を掲げています。

1. 全セクターにおけるエネルギー効率
2. 低炭素エネルギーシステム
3. 二酸化炭素回収・貯留 (CCS)
4. 他の温室効果ガスの排出
5. 都市計画、土地利用管理及び土地利用の転換

*5 <http://www.cancuncommuniqué.com/> (英語)

※ 「リコー、気候変動に関するカンクン声明への賛同を表明」 http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/all/2010/1208_01.html

社会からの 評価

■ 日本経済新聞社 環境経営度調査 第1位 ・第2回(1998年) ・第3回(1999年) ・第4回(2000年) ・第8回(2004年)

■ ドイツのエコム社による「企業の社会的責任」格付け 世界第1位

・1998年(電気・電子産業部門) ・2000年(IT/Electronics部門) ・2002年(OA機器・家電部門) ・2005年(IT部門) ・2009年(IT部門) http://www.oekom-research.com/index_en.php?content=news_20090310170845 (英語)

■ 第12回 地球環境大賞 大賞受賞

2003年

■ WEC (World Environment Center) ゴールドメダル受賞

2003年(アジアの企業として初の受賞)

■ トーマツ審査評価機構による環境格付けにて、最高ランクのAAAに評価される

2005年～2008年(4年連続)

■ Global 100 : 世界で最も持続可能な100社に選ばれる

2005年～2011年(7年連続) <http://www.global100.org/>

■ 第5回 日本環境経営大賞 環境経営パール大賞(最高賞)受賞

2007年

SRIインデックスへの組み入れ

日本においてリコー株式会社は多くのエコファンド、SRIファンドに組み入れられ、運用されており、モーニングスター社会的責任投資株価指数にも2003年の創設時以来組み入れられています。また英国フィナンシャルタイムズ社とロンドン証券取引所の合併会社FTSEグループによるFTSE4Goodグローバル・インデックスに8年連続で組み入れられました。

[組み入れ状況は2011年5月1日現在]

